

東京 憲法を起草する会
第六回 議事録

参加者からの発表①畑元さん「豊葦原の瑞穂の国の五穀の行方」

種子法廃止により進むグローバル化

お米に限らず、粟、稗、麦、豆を元来の日本人は食べており、白米だけでお米を食べるようになったのは現代から。各地域に伝わる食文化を見ても、麦や豆を用いた郷土料理は多く残っているため、五穀は日本の重要な食文化と考えられる。

農作物は種から育つ。育った農作物の種を残し、また翌年植えるのが、本来のサイクル。元来日本では、自家採種や種交換を基本とし、篤農家による育種（神力、愛国、亀ノ尾、旭など）も進んでいた。戦後、公的育種へ変化していく。

(ちなみに、イネ品種データベース検索システムよりお米の系譜を調べられます)

戦後、種子法が制定。稲、麦、大豆などの優良な種子を農家に安定的に供給できるよう、生産責任を公的機関に義務付けたが、平成 29 年に種子法が突如廃止される。

平成 27 年 TPP 対策本部の設置から、平成 28 年 9 月に規制改革推進会議農業 WG より種子法に関する認識と課題が提起され、平成 30 年に種子法廃止が施行される。農林水産省の事務次官の異動により、種子法を取り巻く政府の方針が大きくグローバリズムに転換されたように感じられる。

種子法廃止後、①農業競争力支援法②種苗法改正③農作物企画・検査の見直し④ゲノム編集技術応用食品といったような日本人の主食に対する外圧（時には内圧も）は、数度押し寄せている。

一方で、種子法廃止を懸念する声は根深く、廃止法付帯決議や、自治体での条例制定など、対抗する動きもある。

今後予測される動き

日本の米消費量は減少の一途を辿り、国内米市場は減少している。この状況を鑑みて、ここ数年は「水田のフル活用」「自給率の向上」のための作付転換が農業施策の主旨となっている。

種子市場では、バイエル（モンサントを含む）がメインシェア。バイエルの種子事業は、とうもろこしや大豆が主要であり、お米の技術は乏しいことが予想される。

現状では、日本の米の育種はグローバル企業に負けるものではないが、それを保護する法律が廃止されたため、今後グローバル企業がその技術を奪い取る懸念が挙げられる。我々の住む都道府県の有する種子の情報、権利、設備が二束三文で売られたり、委託されたり、という可能性も考えられる。

一人一人ができること

お米をちゃんと食べましょう！

自分たちで種を守っていきましょう！

住んでいる地域で、田畑の権利や設備の譲渡などがないか気をつけましょう。

参加者からの質問

Q. 種苗法の改正は保守的な側面から見ると変えるべきものだと議論されていたが？

A. 種苗法には、海外への持ち出し禁止と自家採種の原則禁止の二つの柱がある。後者が大きな問題である。登録品種の自家採種禁止の品目が徐々に増え、2020 年種苗法の改正で、全ての自家採種が禁止となった。

参加者からの発表②大熊さん「グローバル化により自治権が失われかけた一事例」

2021年8月の横浜市長選では、争点がIR誘致となり、過去最多の8名の立候補者、投票率は49.05%(前回より12%程増加)と盛り上がりを見せた。立候補者のうち、「IR事業をやる」と明言したのは林さんのみであったが、その選挙裏は非常に怪訝なものだった。

2017年市長選にて、林市長は「カジノ計画を白紙」としたが、2018年IR整備法が制定されると、横浜山下ふ頭再開発計画にカジノの開発(IRの誘致)を施行することを宣言。市民は、そのような意図で林市長を選出していないため、住民投票を訴えることに。2020年には、有権者50分の1の3倍を超える署名を集め、市議会に提出したが、自民党と公明党の反対により請求は却下された。

2021年の市長選にて鍵を握ったふたりの人物がいた。

藤木幸夫氏

- ・ハマのドンと呼ばれる実業家。政財界との繋がりが深い。山下ふ頭へのカジノ誘致に反対。
- ・21年の市長選では、山中さんへの支援を行う。
- ・上記、住民投票を企画した市民団体「カジノの是非を決める横浜市民の会」とも接点が高い。

小此木八郎前国家公安委員長

- ・菅内閣におけるカジノ管理委員会を担当する大臣
- ・「市民の理解が十分に得られておらず、環境が整っていないため、横浜へのIR誘致を取りやめる」という主旨で立候補。
- ・菅首相が異例の支援表明。
- ・「カジノをやらない」と言っている方の支援者が、カジノを推進している人である違和感。

それを受けて藤木さんは、「林さんは菅首相のロボット。スキャンダルを山ほど抱えている。カジノをめぐる問題は汚いものばかり。誰が市長になろうと私の目の黒いうちは、大金を使って人を泣かせるカジノは港では絶対にやらせない。」と講演。

2019年には既に別の場所でのIR誘致計画が進んでいた。

- ・手本はマリーナ・ベイ・サンズ
- ・市は何もしなくても税収が入る仕組み。
- ・ターゲットは世界中の富裕層。プライベートルームの設置。
- ・日本人の入場料は6000円、入り口は別。
- ・決めるのは市議会。横浜市がしないのであれば他の自治体ができるだけのこと。

→横浜市では、藤木さんの計らいにより、企業の協力を得られず、市は山下ふ頭の土地を買収できていなかった。

→その結果、横浜市庁舎の移転計画に伴い、その市庁舎を星野リゾートが購入し、彼らがIR誘致をする可能性もある。2025年中に開業予定。今回の市長選ではIR計画は頓挫したが、次回の市長選などでまた復活する可能性も大いにあるため、油断はできない。

和歌山でも認められない住民投票

市民団体が必要数を超える署名を集め、住民投票を請求したが、多額の費用がかかることから否決。資金調達方法が不明瞭であり、スイスの大手金融企業であるクレディ・スイスを中心とした金融機関から借り入れるとしている。

大阪府と大阪市

建設市となる夢洲にて、液状化や土壌汚染などの問題が発覚。対策のため、巨額の公費負担を投じることに反発が広がる。住民投票の請求を行うため、3月25日より「カジノの是非は府民が決める住民投票を求める会」が署名活動を始めると発表。

おやじさんより

旗本さんは明治神宮で行っていた憲法を起草する会より、共に勉強をしてきた仲間。東日本大震災ではすぐに被災地に行き、仕事を始められた。

彼が現地を見た話では、復興と言いながら、実際には大企業が使いやすいようにその土地を整備していた。地元の方が戻ってこれるような環境整備ではなく、大企業しか事業ができない基盤を作っている。お話いただいた種苗法についても同様に外資系企業によって侵略される仕組みが作られている。

食についても、日本という国は元々、食の国と書いて「おすくに」と呼んでいた。食は日本文化そのものを指す。日本の文化は人間が安定して豊かに暮らしていくことが根本であり、自然の摂理に従って生きることが、もっとも安定して豊かに暮らしていくことができると先人は考えた。その自然の摂理は、分断や孤立ではなく「和」であることを理解し、そのような文化を築いたのが日本人。

対し、グローバル化は個人を対立・管理するという概念であるため、日本の文化が消失しかけている。

戦後、GHQは日本の食文化を変える政策を敷いた。乳製品を消化できない日本人の小学生に対して牛乳を無理やり飲ませたり、パン食に変えたり、という画策。現代ではゲノム関連の食物が当たり前のように出回るようになった。

人工的でない自然食品だとしても、その土地の気候に合わないものを植えても枯れてしまい育たない。その土地に合うものだけが育生し、食べることができる。その地域に植えても馴染まない食べ物を食べても、その環境に合わない体質となる。その結果アレルギーや疾患が発生し、薬で治すことになる状況が起きている。

IR誘致と市長選については、物事を決めるのに市民が全く参加できないという仕組みを説明する良い事例だったと思う。情報に対して、自分たちが吟味し、確認するという仕組みを持ち得ないのが現代。戦後、日本に著しく欠如したのが情報機能。日本は独自に海外情報を収集できず、アメリカから与えられた情報だけで、全てが運営されるという仕組みになっている。

防衛省時代、偵察機の計画を担当したことがあったが、その際も、防衛省として偵察機を購入するために様々な障壁を乗り越え、提起まで至ったが、最終的にアメリカが却下した。

現在は偵察機を持つことが許可されたが、その条件は偵察機で収集した情報はアメリカが管理することである。

内閣や警察など様々なところに情報組織があるが、公的な情報機関は内閣に集約されると同時に、別ルートでアメリカに直接流れる仕組みもある。

このように、自分で考えてはいけない、判断してはいけない、という仕組みがグローバリゼーションのもとで作られている。

16:40 ～ 16:55 休憩

16:55 ～ 17:55 衆議

日本自治集団構想への想い（おやじさんより）

コミュニティがまとまるコミュニティとして「日本自治集団」という組織を立ち上げようと考えています。もし参加者の中で、このような活動をされている方がいらっしゃれば、ぜひご参加いただければと思いますので、お声がけください。

4月3日（日）午前10時 熊野むすびの里にて第一回会合を催しますので、是非ご参加ください。

勉強会の名称をどうするか、という件についてですが、大阪での憲法を起草する会と連携したいので、来週の大阪 憲法を起草する会にて、東京での意見もまとめながら、議論して決めようと思います。

本日の衆議について

グローバリゼーションが目指す秩序ではない、我々が真に欲する社会のありようを築いていくために、こういった活動をしている、もしくは、こういった活動をしていくといいのではないか、という協議をしていただければと思います。

グループ 1: 旗本さん

・お祭りがとても良いのでは、という意見が出ました。毎年お祭りに参加し、御輿を担いでいたが、コロナで2年間やっていない。祭りをしている人は、1年間、その祭りを中心に暮らしている。祭りでの地域の方々との親交もある。地域に残っている祭りを大切にしていけることが、まず自分たちができることではないか。

グループ 2: 丸山さん

通過や経済の話なども出たが、私自身は仕事で「NHK みんなの歌のミュージカル」の取材をし、そのテーマが「SDGs」であったことや、紅白歌合戦なども見てきて、40代後半～50代以上の世代は切り捨て、それ以下の世代を教育し直そうという傾向が強まっているように感じた。現代の中で不安を抱えている子供達に対して、教育をしていくことが大切だと思う。

また、せっかくこのような場に集まっているので、コミュニティを広げていくことも重要。現在の生活から抜け出し、第二・第三のむすびの里を始める決断をしたいものだと話した。モタモタしてられない。

自衛隊に勤められている方が狩猟免許を取るという決意もお聞きしました。

グループ 3: 大石さん

親族の集まりやつながりがなくなっていることが良くないという話がでた。

これから、どういうものを大切にしていけるかを出しあった。

- ・日本語・言葉を大切にする、言語が終わると民度や文化が終わる
- ・自分の周りから始める、町内会などで伝えていく
- ・地域で国旗を掲げているところがないので、自分から掲げる
- ・神輿の会を復活させる、祭りを大事にする
- ・教育をちゃんとやっていく、教育勅語を学ぶ、武道教育を学ぶ
- ・伝統や伝説のある場所に自分から足を運び、体感する

グループ 4:

これから何かしらの活動をするにあたり、周囲の人を振り向かせるために、草の根的に自分自身がしっかりやることが大切。

祭りを大切にする。祭りなどが開催される際には積極的に参加する。

グループ 5: 勝又さん

ロシアやウクライナのニュース報道が全く違うという話から、コミュニケーションが大切という話に落ち着いた。

新しいものを作るというより、元々あったものに立ち返ることができることが日本は素晴らしい。

今日からできることとして、まずコミュニケーションをとることではないか。

グループ 6:

神社などでの集まりに、積極的に参加し、話し合う。

コロナへの対策、日本文化への理解を深め、自分たちで判断・対策できるようにする。

グローバリゼーションを生活の中で切り離すことは非常に難しいが、日常の中で、どういうものを買っているのか、どのような会社の製品を買っているのか、など、日々の判断の中でグローバリゼーションから離れていく必要があるのではないか。

グループ 7: 原さん

文化をどう守るのか、という観点で、テレビを見ないことが挙げられた。テレビの情報は非常に偏っている。そこから日常を変えていくことができる。

学校での必須教育の中で、日本文化を取り戻していけると良い。

神社のお祭りを取り戻していく。神社庁の指示によりできなくなっている側面もあるが、自分自身で意識して、今日ってこういう日なのでは？という思い返して、自分たちでお祝いできると良い。

6年前までは天皇が何をやっているか、わからなかった。でも今はそれを垣間見ることができる。学校で習っていた歴史が正しいと思っていたが、Youtubeなどで違うことを学び疑問を感じ、今日ここにきた、という方もいた。そういったものを逆手にとって、知識をきちんと得て、判断すること。

開かれた皇室という言葉にも違和感を感じる、という意見もあった。

どのような生き方が良いか。

三世代同居、家族が近い場所にいる、という生活基盤を持つこと。

お金がないと生きられないと思い込んでいる概念から飛び出て、自分たちで食べるものを作ること。文化は継承をしていくことが大切であり、その当事者であるという意識が大事。

グループ 8: 山添さん

お米を食べよう、ということにまとまった。

お米を食べている人が少なくなっているという話を聞いて悲しくなった。

仕事や自分の生活を通して、小さいことからどういうことができるか、考えること、そして伝統を守っていくことがグローバリズムに取り込まれないやり方だとまとまりました。

私自身も、一汁一菜で食事をやり始める、ということを始めた。お米を一膳とお味噌汁、おかずがあれば良い。味噌汁の中に季節のお野菜を一品。それだけで季節を感じられるし、その野菜がどこからきたのか、お肉があればとても贅沢、そういうことを昔の人は感じていたのではないかと感じられる。

日本という国は稲作から始まったので、まずはお米を食べて、そして、今出てきたお祭りや言葉、動作などが作られたと思うので、お米を食べる場所を作ること、いつも立ち返られるし、それはどのような立場であってでもできること。

コンビニで買えばいいのでは？という考えもあるが、自立しているとは言い難く、まずは自分で作って食べるという、昔の人がやってきたことで続けていくべきだと思います。

おやじさんより

素晴らしいご意見ありがとうございました。

ぜひ今日のお話を聞いていいなと思ったことがあれば、取り入れていただければと思います。

次回のお知らせ

回次の憲法を起草する会は、4月9日(土)14:30より、神田のワイム会議室での開催となります。またお会いできることを楽しみにしています。